

南アフリカの金利引き上げについて

2015年11月20日

南アフリカ準備銀行(中央銀行)は11月19日、政策金利を0.25%引き上げて6.25%とすることを決定しました。7月以来となる今年2回目の利上げとなりました。事前のエコノミスト予想では利上げと据え置きで見方が分かれていたことから、利上げ発表を受けて南アフリカ・ランドは若干強含みました。

《利上げ決定に至った経緯について》

利上げ決定の背景として、以下のことが考えられます。

①先行きのインフレ加速に対する懸念

直近のインフレ率は、総合CPI(消費者物価指数)は前年比+4.7%、コアCPIは同+5.2%とインフレ目標レンジ(同3~6%)に収まっています。しかしながら、準備銀行は、自国通貨安による輸入物価の上振れ、電力不足による電気料金の値上げに加えて、干ばつによる食料品価格の上昇がもたらす将来のインフレ率上昇に対する警戒感から、今回の利上げ決定に至ったとしています。

②自国通貨の防衛

南アフリカ・ランドは、主要輸出品であるプラチナ等の商品価格下落の影響から2011年後半以降、対ドルでほぼ一本調子下落トレンドにあり、今年に入ってから是最安値を更新しています。準備銀行のステートメントの中では、12月の米国利上げの可能性が高まっていることに触れ、金融市場の変動率上昇により自国通貨が一段と下落することに警戒を強めています。今回の利上げ決定には、自国通貨安を放置しないという準備銀行の姿勢を市場に示す側面もあったと考えられます。

《今後の景気、為替レートについて》

足元の景気については、製造業PMI(購買担当者指数)は依然として低調ですが、企業景況感には持ち直しがみられています。製造業生産は市場予想に反して前月から増加した一方、小売売上高は減少しました。準備銀行は今後の金融政策についても引き続き、将来のインフレに対して警戒しつつ、景気にも配慮した運営を行うとみられます。

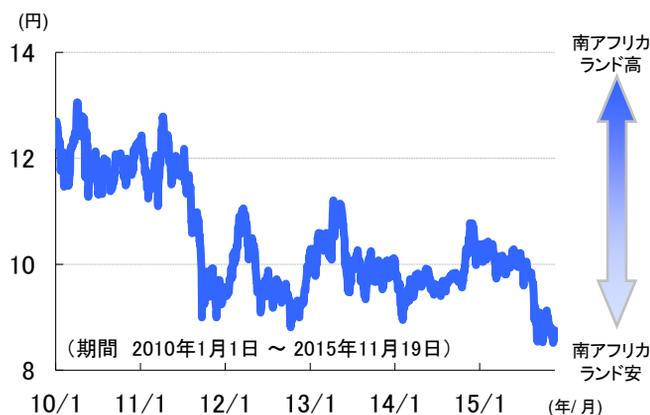
南アフリカ・ランドは、欧州や中国の景気動向に対する先行き不透明感が懸念材料とみられます。しかし、米国の利上げについては年内に開始されたとしてもその後のペースは緩やかとみられており、南アフリカ・ランドの相対的な金利の高さが支援材料になるとみています。

《南アフリカの政策金利の推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《南アフリカ・ランドの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。